



# 信太の森ニュース

No. 42  
2023年1月15日

文責 田丸八郎



惣ヶ池湿地の高木処理作業

惣ヶ池湿地へ行くと道端に大きな枯れ木が落ちていたことが時々あります。直撃すれば怪我だけでは済まない事態になり兼ねません。

惣ヶ池湿地付近には樹齢30年を越すコナラ、アベマキの高木が沢山あり、カシノナガキクイムシによるナラ枯れが増えています。枯枝はいつ落下するか分かりません。

高所で折れた枝落としの作業についてはニュースNo40号でお知らせしましたが、今回は前回枯れ枝を落とした巨木のアベマキを途中から切り落とすことにしました。

このアベマキは、高さ20m以上あり、幹回りが2m近い巨木です。この巨木を途中から切り落とすことに。

森林ボランティアとロッククライミングの経験がある会員のTさんを頼りにするしかありません。

20m以上ある巨木を一気に切り倒すには危険が伴うため、隣の木の途中まで登り、安全確保をした上で長い柄のついた鋸で切り落とすことに。

年末にロープだけで登り下りする練習を行い、年明け5日に実行することにしました。

ハーネス(安全ベルト)を着け、両足を乗せるロープを操りながら登るにはかなりの時間と労力が必要です。一本切り落とすのに3時間以上かかり、この日は2本切り落とすことができました。Tさん無しには到底なしえない作業でした。Tさんに感謝。

NPO法人 信太の森FANクラブ  
事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202  
電話 0725-45-7357 090-1225-9159  
E-mail [tamahati@amber.plala.or.jp](mailto:tamahati@amber.plala.or.jp)

## 公園協議会の動きと活動

公園協議会令和4年度総会が6月16日に、また今年度第1回事業計画ミーティングが7月19日に開催され当クラブから4名が参加しました。

総会では、開園後の指定管理について、土日祝と小学校などからの利用予約があったときだけの開館には納得がいかない。指定管理者のみで運営が無理ならボランティアを含めた開館を行うべきだ。更に公園管理について、指定管理者の役割、ボランティアの役割を明確にしておく必要があるのではないか。などの意見が出されました。

## 自然公園施設の整備工事始まる

令和6年度開園に向けて施設等の整備工事がいよいよ始まりました。

それに先立ち始められた信太5号線の道路工事が進められる中、7月末から拠点施設（管理棟）の整備工事も始まりました。

鬱蒼としていたアラカシ林もユンボという機械力であれよあれよと言う間に切り開かれ



て様子が一変。

様子が一変するのは仕方ないとしても、道路工事と併せて行われた野外トイレへの引き込み電線（約200m）を張るために高い電柱が10本も設置されたのには納得がいきません。

電気の引き込みは承知していましたが、高い電柱を立てることにに関しては先の企画運営

会議で初めて出され、電柱が高過ぎては里山自然公園として景観上好ましくない。地下ケーブルに出来ないのかななどの意見が出されましたが、既に契約済みであったのか聞き入れられませんでした。

## 自然公園西エリアでカヤネズミ

6月5日は公園協議会の保全活動日。公園西エリアの草刈を終えて引き上げようとした時、日本で一番小さいと言われるカヤネズミが見つかりました。早速捕まえて活動に参加していたみなさんに見て貰いました。



カヤネズミ

初めて見る人が殆どで、多くの人がカメラやスマホにその姿を収めていました。

これまで、カヤネズミの巣は幾つかの湿地で見つかっており、生息していることは確認されていましたが、ネズミそのものにお目にかかることは殆どありません。巣は野鳥の巣と同じで繁殖期だけのものです。

筆者が信太山丘陵でその姿を目にしたのはこれが二回目。14年ぶりのことです。

ススキなどイネ科植物をもっと増やせばカヤネズミの繁殖地になるはずです。

## 室内例会を再開

FANクラブが発足した当時「室内例会」を2ヶ月に1回程度実施していました。

会員の得意分野について発表して貰う形で実施していましたが、発表者が一巡してしまうとその段階でストップしてしまいました。

日頃、保全活動と観察会を実施しているものの昨年の「スズメバチ被害」を契機にこのような事故を防ぐための知識を共有しながら活動していくことの必要性を痛感しました。

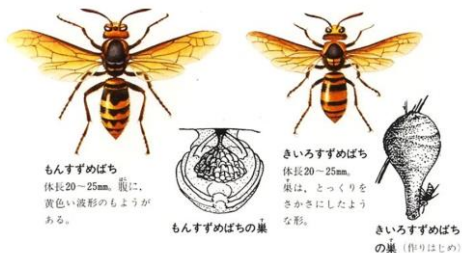
自然に潜む危機意識だけでなく、「保全活動＝草刈」ではなく「何をどう保全していくのか」などみんながそれらに関する知識を共有していく必要があるのではないかと思います。

今年度の事業計画で2ヶ月に1回「室内例会」の実施を掲げています。

第1回目は、「安全対策講座」として自然に潜む危険な生き物や植物について学習しました。

### 1)ハチ類

女王蜂・働き蜂・オス蜂で家族生活を営む。いろいろな昆虫・肉・くだものなどを食べる。朽れた木から繊維をとってハルバ製の巣を作る



テレビで放映された「危険な生き物：スズメバチ」のDVDを見て学習したほか、ヘビ、ムカデ、マダニやウルシ科の植物など自然界の危険な生き物について学びました。その後の観察会からハチ被害を無くするためにハチ撃退用のスプレーと毒液を吸引するポイズンリムーバーなどの救急セットを携帯することにし、湿地の各所にダミーのハチ巣を設置することにしました。

これまで惣ヶ池湿地ではマムシはいないものと思って作業をしていましたが、それも「危険な生き物」の学習後に湿地内で確認されました。マムシにも注意が必要です。



第2回目の例会は「除去すべき外来植物」について実施しました。2回目は除去対象植物を直接現地を見て貰うために惣ヶ池湿地と公園西エリアの草原を歩きながら実施しました。

惣ヶ池湿地では、メリケンカルカヤ、シマズメノヒエ、ケイヌビエが増えています。

外来種ではありませんが、惣ヶ池湿地ではススキも除去しなければならない植物です。これを放置すると増殖して湿地の乾燥化に繋がるからです。

公園西エリアには、ブタクサ、繁殖力が強いセイバンモロがあり、根っこから除去しなければなりません。



繁殖力が強いセイバンモロコシ

外来植物の除去は、その後の保全活動で生かされています。

### 惣ヶ池湿地・野鳥ファンが増える

惣ヶ池湿地とその谷沿いには年間を通していろんな野鳥がやってきます。大きな鳥ではアオサギ、ダイサギ、オオタカ、コジュケイ、カルガモ、カラスなどが、小さな鳥ではカワセミ、ウグイス、キビタキ、ルリビタキ、コゲラ、エナガなど30数種の野鳥が確認されています。

そのなかでカワセミとルリビタキに人気があり、カメラに長い望遠レンズを着けた人がここ2、3年増えています。増えるのはいいのですが、湿地の中に入り「止まり木」を立てたり、餌付けをする人が出てくるのは困りものです。

当クラブのHさんは長年信太山丘陵の野鳥の写真を撮り続けていますが、「自然のままを撮るのがいいのよね」と困惑顔。撮影マナーを守って欲しいものです。

## おもしろいキノコを見つけました。

11月の惣ヶ池湿地保全活動時に草刈をしていたOさんとIさんが「これなんですか？キノコですか？」と径4cmほどでジャガイモみたいなものを持ってこられました。

割ってみると中にはうどんのような白いものが重なっていました。

その写真をメールで送って貰い、調べて見ると「カゴタケ」のようでした。翌々日に観に行くと白いものは網の目状に分離しておりカゴタケ（籠タケ）であることがわかりました。



まるでジャガイモ



2日後蔓で編んだ籠のように

今年の夏、信太の森ふるさと館で「信太山丘陵のキノコ展」を企画中です。そのためにキノコの写真の整理をしていると2019年10月の里山自然公園西エリア草原の保全活動現場でジャガイモ風のキノコが見つかりました。不思議なもので、2度あることは3度あるといいますが、今年最初の惣ヶ池湿地の活動日にも完全なカゴタケが見つかりました。



2019.10：西エリア草原  
で見つかったカゴタケ



2023.01.15  
活動日：惣ヶ池湿地

## 惣ヶ池湿地に雨宿りテント設置

惣ヶ池湿地の格納庫横にベンチができた頃、その当時の保全活動参加者から「雨が降ったときに雨宿りができるテントを張れたらいいね。」という話が出ていました。（2015年）

その時はブルーシートを常設するのは湿地の景観上好ましくないということでその話だけで終わりました。

12月に当クラブ会員のK氏と大阪府大卒業生を惣ヶ池湿地へ案内した折、急に雨が降り出し、保全用具などが詰まった狭い格納庫の中に緊急避難して雨をやり過ごしました。

その時に「格納庫の庇にブルーシートを巻き取って収納できるテントを設置してはどうだろう」ということが閃き、早速実行することに。5、6人は雨宿りできる簡易設備ができました。



NPO法人信太の森FANクラブは、昨年

6月に設立10年を迎えました。記念事業の一つとして「信太山丘陵散策図鑑—植物編—」を刊行することになりました。

信太山丘陵だ

けでなく、ご自宅近辺の散策のお供にして活用いただければ幸いです。

